

岡山大学教師教育開発センター

所在地：

住所：〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1（津島キャンパス）
〒703-8281 岡山市中区東山2-17-4（教師教育開発センター東山ブランチ）
電話/FAX：086-251-7728/086-251-7586（いずれも津島キャンパス）
URL：http://www.okayama-u.ac.jp/user/cted/

構成員：（令和4年1月31日現在）

センター長(併)	教授	三村 由香里
副センター長	教授	高旗 浩志
	教授(特任)	堀井 博司
教師教育開発部門	教授	高旗 浩志(再掲)
	准教授	才野 博紀
	講師	三島 知剛
教職支援部門	教授(特任)	山内 隆彦
	教授(特任)	國府島 知子
	教授(特任)	近藤 弘行
	教授(特任)	小林 清太郎
教職コラボレーション部門	教授(特任)	堀井 博司(再掲)
	教授(特任)	近藤 弘行(再掲)
	教授(特任)	小林 清太郎(再掲)
理数系教員養成事業部門	教授	山崎 光洋
	教授(特任)	荒尾 真一
	教授(特任)	平野 和司
事務職員	中新 朗久	
	青山 ひかり	
	小谷 馨	
	本瀬 真樹子	

センターの概要

当センターは、全学教職課程の企画・運営、教職支援活動を通して岡山大学における教員養成の質を保証するとともに、学校支援・現職教員研修等の教師教育の研究開発と事業推進を目的として平成22年4月に設置された。センターは教師教育開発部門、教職支援部門、教職コラボレーション部門、理数系教員養成事業部門の4部門から成り、全学教職コア・カリキュラムの研究開発、教職指導（教職支援・相談業務）、県下の協力校、教育学部附属学校園、教育委員会等、関連諸機関との連携協力事業、理数系教員養成事業等を実施している。

学内での年間活動状況

a) センター専任教員の全学教職課程・大学院教育への授業担当状況

① 全学教職課程への授業担当状況

○教育実習Ⅰ（観察・参加実習）○養護実習Ⅰ（観察・参加実習）○教育実習Ⅱ（幼稚園教育実習基礎研究）○教育実習Ⅱ（小学校教育実習基礎研究）○教育実習Ⅱ（中学校教育実習基礎研究）○養護実習Ⅱ（養護実習基礎研究）○教育実習Ⅱ（教育実習基礎研究A・B）○教育実習Ⅲ（幼稚園実習）○教育実習Ⅲ（小学校実習）○教育実習Ⅲ（中学校実習A）○養護実習Ⅲ（附属・公立学校実習）○教育実習Ⅳ（中学校）○教育実習Ⅴ（高等学校）○教育の制度と社

会D I・D II○生徒指導論D I○教職入門D I・D II○教職実践演習（中・高）○特別活動論
○教育心理学概説D I・D II○工業科教育法（基礎I・II）（応用I・II）○職業指導概説○総合的な学習の時間の指導法D

②大学院教育への授業担当状況

○教材開発と授業デザイン○授業アセスメント技術とその応用○生徒指導と発達支援教育○アクティブラーニングの理論と実践○C S T教育の理論と実践○生徒指導特論○学校社会学特論

b)教職支援部門

①教員志望学生に対する教員採用試験受験のための相談・指導業務

教職相談室利用者数(令和3年2月1日～令和4年1月31日)

	学部				大学院		その他	合計
	4年生	3年生	2年生	1年生	2年生	1年生	別科/他学部	
利用者総数	2366	1310	8	3	98	62	288	4135
新規利用者数	169	169	4	3	19	13	60	437

②高年次教養科目「教師力養成演習」の実施

【概要】

本授業では、学校教育における現代的な課題を取り上げ、学校で活躍する先生方、教育委員会などで教育行政に携わる方々の講話と、各学生同士のグループ演習や意見交換により、学校教育の様々な課題の現状や対策などを学ぶ。

○外部講師を招聘した授業

(1)第2回演習(令和3年7月14日実施)参加者36名

テーマ:「授業これからは!」～指導と評価の一体化 初めの一步～

講師:岡山市教育委員会指導課 指導副主査 仲宗根 篤史 先生

(2)第3回演習(令和3年7月21日実施)参加者32名

テーマ:「GIGA スクール時代の情報モラル教育」～自分のこととして考える指導のあり方～

講師:岡山県総合教育センター 企画部 総務企画班 指導主事 青山 茂行 先生

岡山県総合教育センター 企画部研修企画班 指導主事 杉田 静 先生

(3)第4回演習(令和3年7月28日実施)参加者35名

テーマ:「GIGA スクール時代の情報モラル教育」～1人1台端末の活用で充実させる主体的な学び～

講師:岡山県総合教育センター 企画部 総務企画班 指導主事 青山 茂行 先生

岡山県総合教育センター 企画部 総務企画班 指導主事 坂本 智幸 先生

(4)第5回演習(令和3年12月22日実施)参加者38名

テーマ:「生徒指導について」～問題行動党の未然防止と対応に必要な視点～

講師:岡山市教育委員会事務局学校教育部指導課 教育支援担当課長 一守 和弘 先生

(5)第6回演習(令和4年1月12日実施)参加者31名

テーマ:「困難さのある子供の理解と支援」

講師:岡山県総合教育センター 指導主事 田原 裕也 先生

(6)第7回演習(令和4年1月19日実施)参加者27名

テーマ:「人権教育の知識と考え方」～豊かな人権感覚を身に付けた教師となるために～

講師:岡山市立御南中学校校長 河合 浩一 先生

対外的な教育・研究活動状況

a) 岡山県教育委員会との連携協力事業

① 教員養成に関する事項

- ・ 岡山県総合教育センターによる研修講座及び研究発表大会の学生・大学教員への公開
- ・ 「教師への道」 インターンシップ事業
- ・ 学生による学力向上支援への協力

② 教員研修に関する事項

- ・ 授業力パワーアップセミナー

b) 岡山市教育委員会との連携協力事業

① 教員養成に関する事項

- ・ 岡山市の教育施設における学校支援ボランティア事業

② 教員研修に関する事項

- ・ 学力向上推進プロジェクト
- ・ 岡山市教育研究研修センターにおける教育研究・研修講座の指導・助言
- ・ 岡山市教育研究研修センターによる研修講座の学生・大学教員への公開

③ 学校教育上の諸課題への対応に関する事項

- ・ スクールボランティア支援システムVALEOの運用

c) 岡山県教育委員会・岡山市教育委員会等との合同による連携協力事業

- ・ 教職実践インターンシップ
- ・ 理数系教員（CST）養成拠点構築事業
- ・ 教師力養成演習における教育委員会指導主事・学校長等の講演
- ・ 教職ガイダンス
- ・ 岡大サテライト研修

d) 全国研究会への参加

① 第99回国立大学教育実践研究関連センター協議会

- ・ 開催日：令和3年10月15日（金）
- ・ 場所：オンライン開催
- ・ 内容：総会、報告、意見交換

② 令和3年度日本教育大学協会研究集会

- ・ 開催日：令和3年10月2日（土）
- ・ 場所：オンライン開催
- ・ 内容：教育者養成の理論と実際に関する調査研究等の発表及び協議、その他

③ 第100回国立大学教育実践研究関連センター協議会

- ・ 開催日：令和4年2月18日（金）
- ・ 場所：オンライン開催
- ・ 内容：総会、報告、意見交換

外部資金導入状況

- a) センター専任教員が研究代表もしくは研究分担者の科研費受給状況
 - ①科学研究費補助金 基盤研究（C）「非教育学部の教職課程履修学生の教職課程イメージに関する探索的研究」 三島知剛（代表）
- b) センター専任教員あるいはセンターとして受給した学内科研・・・なし
- c) センター専任教員あるいはセンターとして受給した外部資金導入
 - ①教職員支援機構「NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業」による「校内OJT チームを核とした若手教員授業力向上支援事業 ー授業力パワーアップセミナー」 高旗浩志
- d) センター(専任教員)が他のセンター(専任教員)と連携して申請した科研費受給状況・・・なし
- e) GP 等採択状況・・・なし

岡山大学教師教育開発センター紀要原稿執筆要領

1. 原稿の書式

和文原稿では、A4 判縦置き、横書き、10.5 ポイント、1 ページ及び最終ページを別紙「和文原稿のレイアウト」のとおりとし、その他のページを 35 字×40 行、1 段組、原稿末尾の英文表題等も含め 15 ページ以内とする。マージンは、上 30mm、左・右・下 35mm とする。

英文原稿の場合は、A4 判縦向き、10.5 ポイント、40 行、1 段組、原稿末尾の和文表題等も含め 20 ページ以内とする。

原稿は、すべてワードプロセッサで作成し、図表や写真等は原稿に貼り付けて、完全原稿とする。

2. 論文の体裁

体裁並びに表記の順序は、次のようにする。

【和文原稿】※別紙「和文原稿のレイアウト」を参考に原稿を作成すること。

(1) 1 頁目には和文表題、和文著者名、和文要旨（刷り上り 9 ポイント、40 字×10 行以内）、日本語キーワード（5 語以内）、所属機関名を順に掲載する。複数名が同所属機関の場合は、所属機関名をまとめて記述する。

(2) 本文

章・節・項の見出しを付けて、読みやすく構成する。章はローマ数字（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ・・・）、節は全角の算用数字（1、2、3・・・）、項は全角の括弧付き数字（(1)、(2)、(3)・・・）とする。

(3) 注は、執筆者の任意とする。

(4) 参考・引用文献は、原則として、著者名、文献表題、文献名、発行所、ページ、発行年を含めて表記し、引用順、又は著者名のアルファベット順に並べて本文末尾に掲載する。

(5) 原稿末尾に、英文表題、ローマ字表記著者名、英語キーワード（5 語以内）、所属機関名を必ず表記する。なお英文要旨（刷り上がり 10 行程度）を付けることが望ましい。

(6) 英文表題は、冠詞・前置詞・接続詞（いずれも文頭を除く）以外の全ての語の頭文字を大文字で書く。

(7) ローマ字表記著者名は、「名字（すべて大文字）+名前（頭文字のみ大文字で後は小文字）」で書く。

【英文原稿】

(1) 1 頁目には英文表題、ローマ字表記著者名、英文要旨（刷り上り 10 行以内）、英語キーワード（5 語以内）、所属機関名を順に掲載する。英文表題の体裁は、和文原稿の体裁 (6) を参照。複数名が同所属機関の場合は、所属機関名をまとめて記述する。

(2) 本文

和文原稿の体裁 (2) を参照。

(3) 注は、執筆者の任意とする。

(4) 参考・引用文献

和文原稿の体裁 (4) を参照。

(5) 原稿末尾に、和文表題、和文著者名、和文要旨 (刷り上り 8 行程度)、日本語キーワード (5 語以内)、所属機関名を必ず表記する。

3. 提出物

(1) 投稿原稿提出書

別添の「投稿原稿提出書」に必要事項を記入の上、原稿を提出する封筒に貼付し、(2) 以下の「完全原稿」「原稿を納めた電子媒体」「投稿論文等チェックリスト」と併せて提出する。

(2) 完全原稿 (レイアウト済み)

図表や写真等が添付され、刷り上りと同じ体裁の原稿とする。図表や写真等を挿入する際には、ファイルの本文中に組み込むか、適当な大きさに縮小して貼り付けること (ヘッダとページ番号の挿入は編集委員会で行います)。

(3) 原稿を納めた電子媒体 (CD-R, DVD-R または USB メモリ等)

以下のような保存文書ファイルを「最終原稿」として提出する。ファイルの保存形式は、MS-Word 文書形式 (*.doc または *.docx) とする。

① 「最終原稿」に図表や写真等の割付位置を明示しているだけの場合 (=打ち出し原稿に貼り付ける場合) は、その図表や写真等のデータファイルを別に添付すること。

② 図表や写真等について、より鮮明な印刷を希望する場合は、そのデータファイルを別に添付すること。

③ 図表や写真等は、特に希望しない場合、白黒印刷となるので留意すること。カラー印刷を希望した場合に発生する差額は執筆者負担とする。

(4) 投稿論文等チェックリスト

コンプライアンスの徹底を目的とする。投稿責任者 (原則筆頭執筆者) が、自筆でチェックと署名及び捺印を行った上、提出する。

注1 特殊な外字等を使用している場合は、拡大文字で印刷し、最終原稿上にその場所を明示して下さい。また数式に使用する文字・記号は明瞭に記載して下さい。

注2 原稿を上記形式 (*.doc または *.docx) に変換できない場合は、打ち出した完全原稿のみを提出ください。この場合は、編集はすべて執筆者にお願いすることになります。

注3 原稿を納めた電子媒体 (CD-R, DVD-R または USB メモリ等) を郵送する場合、ディスクの保護に留意してください。

岡山大学教師教育開発センター紀要編集委員会

編集委員：高旗 浩志（教師教育開発センター 副センター長）
堀井 博司（教師教育開発センター 副センター長）
山崎 光洋（教師教育開発センター 教授）
才野 博紀（教師教育開発センター 准教授）
三島 知剛（教師教育開発センター 講師）

編集補佐：中新 朗久（教職支援グループ 主査）
青山 ひかり（教職支援グループ 事務職員）
本瀬 真樹子（教師教育開発センター 事務補佐員）

岡山大学教師教育開発センター紀要

第 12 号

令和 4 年 3 月 30 日発行

編集・発行 岡山大学教師教育開発センター
〒700-8530 岡山市北区津島中 3 丁目 1 番 1 号
Tel 086-251-7728, Fax 086-251-7586
URL <https://www.okayama-u.ac.jp/user/cted/>

印 刷 昭和印刷株式会社
〒700-0942 岡山市南区豊成 3 丁目 1-27
Tel 086-264-6110, Fax 086-262-5096